

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第302回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援が続いている。今回は秋田大学と神戸電子専門学校が実施したプログラムを紹介する。

秋田大学の活動報告



足立 高弘
(秋田大学理工学研究科附属
クロスオーバー教育
創成センター長)

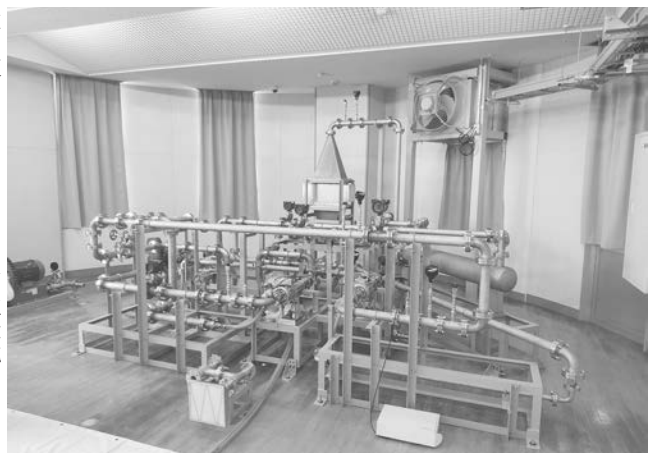
航空機電動化と雪国秋田を実感

マレーシアとの交流プログラム

令和4年の2月末から3月上旬にかけて、マレーシア日本国際工科院の学生を対象に5日間のさくらサイエンスオンラインプログラムを実施した。交流計画のテーマは「航空機電動化の最先端と雪国秋田を実感できる交流プログラム」についてである。近年秋田県では航空機電動化に関する研究が盛んである。また、マレーシアの学生にとって、雪国秋田の暮しは未知の世界と考えるので有意義な交流ができるものと本企画を考え実施した。

本プログラムでは、秋田大学や秋田県が進めている航空機の電動化というテーマに興味を持ってもらうこと、そして将来秋田に留学して航空機電動化のテーマについて研究の機会を持つってもらうことが、交流計画の主な目的および趣旨である。秋田大学と秋田県立大学は、共同で電動化システム共同センターを運営し研究を行っている。また、日本を代表する航空機関連メーカーIHI(株)とも共同で研究を行っている。

右下の写真は、IHIとの共同研究で最近完成した航空機電動化に関する実験装置の一例である。電導化システム共同センターに設置されている。センターでは最先端の実験装



電動化システム共同センターの実験装置

置を使って、モーターの高性能化やスマートグリッド送電および客室空室システムのついて研究を行っている。これらの装置や研究および航空機電動化の現状について、秋田大学の教員や学生、IHIのメンバーが詳しい説明を行い、マレーシアの学生には大変興味を持ってもらったと感じている。

その他に、雪国秋田の特色を知ってもらうため、公益財団法人秋田県国際交流協会(AITA)からゲストスピーカーをお迎えして講演していただいた。AITAは、国際交流に関する幅広い分野の活動を促進することにより、世界各国との相互理解と友好親善を深めるとともに、地域の活力を高め、より豊かな県民生活の実現に資することを目的として設立された団体である。ゲストスピーカーには、「雪国秋田の暮らし」などマレーシアの学生には珍しいであろう雪国の生活について講演してもらった。秋田に興味を持ってもらえたら幸いであるが、寒そうな印象で敬遠されなければ良いと思う。

最終日には、秋田大学の学生とマレーシアの学生、教員およびAITAからの通訳の方とで、異文化交流会を実施した。お互いの地域の美味しい食べ物や話題や人気のスポーツ、休日の過ごし方などの話題で盛り上がった。マレーシアの学生も進んで意見を言ったりすることは苦手なようで、日本人と似ているなど感じた。アジアの控え目な文化を共有してい

ると両国の学生も感じたと思う。このように相互理解や交流を図ることができた本プログラムは、マレーシアの学生に秋田の研究や将

神戸電子専門学校 活動報告



李 香蘭
(神戸電子専門学校国際交流グループサブリーダー)

アニメ制作テーマに

日中オンライン交流会

神戸電子専門学校はさくらサイエンスプログラムの支援を受けまして、2022年1月17日から5日間、中国河北外国语学院と「日本のアニメ制作」をテーマにオンライン交流会を実施しました。河北外国语学院とは2018年に提携して以来、先方の留学生の受入れなどで交流を深めて来ました。

本来は河北外国语学院の学生たちを招へいる予定でしたが、コロナの収束の目途が立っていないため、オンライン形式での実施に至りました。交流会には本校デジタルアニメ学科の学生10名と、河北外国语学院の学生10名が参加し、その他今回の交流テーマに興味を持って複数の学生も見学者として加わり



- ・神社に住んでいる妖怪
- ・人間とキツネの姿がある
- ・とても明るい性格
- ・人間が好き

神戸電子専門学校「夏夜の空」作品の隣

来の秋田への留学を考えてもらう機会として効果的であったと考えている。

しました。

二日目は日本の手描きアニメについて、本校デジタルアニメ学科の土居学科長による講演を交えた講義を実施。河北外国语学院の学生からはたくさん質問がありました。アニメ専攻ではない見学者からも非常に分かりやすい説明だったとの感想が聞かれました。

三日目は、(株)グラフィニカ京都スタジオの小宮代表による本社新宿スタジオを含む五つのスタジオ内部の紹介と、実例を用いたアニメ制作におけるカメラワークに関するセミナーがありました。

四日目は両校の学生が制作した作品の発表会を実施しました。河北外国语学院の学生は現在人類が直面している問題を題材にした3作品、■自閉症の子供を描いた「星の子供」、■平和を謳歌する「戦場の音」、■地球環境を守る「太陽の下の緑」。本校の学生は日本の伝統的なアニメ、■狐の妖精と高校生の出会いを描いた「夏の夜空・君の隣」、■ガンガンプラモデルの転売屋と戦う「RESELLER HUNTER」、■死者を復活させたことによる魔女裁判を描いた「ネクロの花嫁」の3作品を発表しました。

発表後、両校の学生による、優秀作品投票を行いました。優秀作品に選ばれたのは「戦場の音」と「夏の夜空・君の隣」でした。

最終日は投票により選ばれた2作品の再上映と、今回の交流会に参加した学生の交流会への感想発表および土居学科長による総評を行いました。河北外国语学院の学生作品には

「言葉はないが、絵と音で作者が伝えたいことを観衆に伝えている点が非常に良かった」との評価があり、神戸電子専門学校の学生作品については、作画はもちろん、学科を超えたコラボレーションにより、アフレコやBGMの制作も全部学生による完璧な作品に仕上がっている点が高い評価を得ました。今後、コロナが収束し、自由に行き来できるようにになりましたら、是非、アニメの本場である日本で日本の学生たちとチームを組んで作品制作してみたいとの意見も多数ありました。

日本のアニメ制作をテーマとした今回の交流会は、両校の交流を深め、お互いの友好関係を強化すること、日本のアニメ文化を海外に広めることに繋がったと思います。最後に今回の交流会の実施に多大な支援をくださったJSTに感謝いたします。また、次回には対面でのプログラムが実施できることを心から願っています。